

いっぱい咲いてね、あさがおの花 ～あさがおがくらす「土」について考える～



「どんな花が咲くのかな」



臨時休業が明けた6月。あさがおの種を手にした子どもたちは、「どんな花が咲くのか見てみたい」、「私は紫色の花だと思う」「ぼくは、ほしの形や四角や丸の花が咲くと思う」と手の平にある小さな種を見つめながら想像を言葉にしていました。Aさんが、「あのね、いっぱいお花が咲いたら、みんなが入れる、こ～んなに大きな、花の教室を作りたい」と、両手を大きく何度も広げながら学級の友だちに伝えました。こうして、生活科「いっぱい咲いてね、あさがおの花」の学習が始まりました。

「種を蒔きたい。でも、心配なことがあるよ」



子どもたちは、あさがおの種を買いに地域の花屋さんを探しました。Bさんが、通学路の途中に花屋さんがあることを教えてくれました。場所を調べると学校から歩いて3kmの所にありました。「みんなで歩いて行きたい」、「種の遠足みたいだね」と、花屋に行くことになりました。すると、Cさんが、「あのさ、種はさ、みんな違うから、形も色も違うから、植え方があるのか聞きたい」と心配に感じていることを友だちに伝えました。そして、「どんな鉢に植えたらいいのか分かんない」、「どうしたら大きな花が咲くのかな」、「植えた種が鳥に食べられたらどうしようって心配」、「お花にね、水をあげすぎたらどうなるのって聞きたい。弱っちゃうと思うから」と、それぞれの思いを言葉にしていました。こうして、あさがおの種への期待と花屋さんへ聞いてもらいたい心配を胸に地域の花屋さんへと向かっていきました。

「ふわふわの土に植えてあげたい」



花屋さんの中に入るときれいな花がたくさんありました。花屋のMさんからあさがおの種を受け取った子どもたちはとても喜んでいました。そして、あさがおについての心配事を花屋のMさんに相談する子どもたち。どんな土がいいのかはその花にとって違うこと。種が芽になって生長していくときに必要な土の状態を「種は赤ちゃんだから」、「みんなものどが渴いたら水を飲みたいよね」と話してくれました。Dさんが、花屋さんではどんな土に種を蒔いているのか聞きました。そして、その培養土を教室に持ち帰り土の中に手を入れて感触を確かめたり、においをかいだり、何が入っているのかじっと見つめる子どもたち。「この土、カブトムシ、森のにおいだよ」とEさん。「わたし、このふわふわの土に植えてあげたい」と指で何度も土をすくいその感触の気持ちよさを話すFさんの姿がありました。



このようにあさがおがくらす場所となる土をじっくりと調べ、花屋のMさんから受け取った種を一粒ずつ蒔いていきました。どんな色の花が咲くのか楽しみにしている子どもたち。クラスのみんなが入れるあさがおの教室。子どもたちがあさがおと一緒に大きくなっていく夏を迎えます。